

那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート
第2期(平成29～33年度)

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考	
1. 収集・保存・活用								
1-1 資料の収集	収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集します。	新規収集資料件数	採集・購入他(全分野)	1,460件	504件	292件	504件	
			1.歴史	400件	117件	80件	117件	古地図ほか
			2.民俗	25件	37件	5件	37件	双六ほか
			3.考古	0件	0件	0件	0件	
			4.美術	10件	3件	2件	3件	錦絵ほか
			5.文学	25件	18件	5件	18件	塩原関係作品ほか
			6.地学	50件	8件	10件	8件	化石ほか
			7.植物	150件	0件	30件	0件	
			8.昆虫	750件	295件	150件	295件	採集295件
			9.動物	50件	26件	10件	26件	購入4件(哺乳類、爬虫類)採集22件
		寄贈(全分野)	—	874件	—	874件	歴史428件、民俗386件、文学3件、美術36件、地学21件	
		合計	—	1,378件	—	1,378件		
収蔵資料総件数	—	79,753件	—	79,753件	H30.3.31現在 歴史19,197件、民俗5,955件、考古4,284件、文学66件、美術3,754件、地学645件、植物5,030件、動物40,822件			
新規収集図書件数	購入	150件	23件	30件	23件			
	寄贈	—	—	—	770件			
収蔵図書総件数	—	17,043件	—	17,043件				
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数	5,000点	977点	1,000点	977点	実績:民俗818件、美術103件、地学56件	
1-3 資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	1回	1回	1回	
			附属施設	5回	1回	1回	1回	黒磯郷土館
	資料の修復 資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	資料の修復	歴史資料	25件	12件	5件	12件	古地図の修復
			考古資料	15件	3件	3件	3件	土器の修復
美術資料			25件	13件	5件	13件	日本画の修復9件、ブロンズ化2件、ブロンズ修復2件	
			常設展示	—	—	—	1,092件	
			企画展示	2,500件	133件	500件	133件	恐竜展50件、古地図展83件

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用数	トピックス展他	750件	140件	150件	140件
			黒磯郷土館	—	414件	414件	414件
			日新の館	600件	72件	120件	72件
		関谷郷土資料館	—	720件	720件	720件	
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出資料数	—	91件	—	91件	化石1件、模型1件、モニュメント8件、歴史3件、民俗4件、考古3件、美術71件
【特記事項】	<p>特別展・企画展示資料として、古地図や化石等を重点的に購入した。資料の公開については、民俗分野(人形・計818点)と美術分野(高橋由一の作品と高久靄匠をはじめとする日本画の作品・計103点)において実施した。資料の修復については、古地図の裏打ちを12点、縄文土器を3点、小泉斐作品等の日本画を9点実施した。また、屋外にある南庄作ブロンズ作品2点の修復を行った。継続して実施していた南庄作作品のブロンズ化は、今年度実施の2点で全て完了した。資料の活用については、東京国立近代美術館工芸館名品展や移動展は他館の資料を借用して展示したため、目標値を大幅に下回った。収蔵資料の貸出先は、さくら市ミュージアムや栃木県立博物館、那須町文化センター、上野記念館である。</p>						
【課題・改善点等】	<p>新規収集資料件数は、目標値を達成しており、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境の確保が重要な課題となっている。資料の公開については、計画的に実施するよう努める。資料の活用については、企画展示やトピックス展において、収集した資料を積極的に利用・公開していく必要がある。</p>						
【外部評価委員 所見】	<p>平成29年度目標はほぼ達成されており、今後も積極的かつ継続的に収集されたい。資料の収集活動とその保存及び活用は、博物館の使命と考える。しかし、収集された資料が収蔵庫のスペース不足により、適切な保存が難しい状況にあることは大変危惧する。これまでの評価でも指摘しており、早急な対応が望まれる。また、新収蔵資料についてはできる限り公開するとともに、資料の公開や活用は引き続き計画的に進めていっていただきたい。限られた人数の中であるが、博物館活動において継続して収集活動を行うことは重要なことである。</p>						
2. 調査研究							
2-1 調査研究活動の推進	地域に関するテーマや博物館活動に関する調査研究を行います。	那須野が原博物館紀要発行回数	5回	1回	1回	1回	
	研究成果を広く市民に還元します。	学術論文の執筆数、発表会や講演会の回数	50回	10回	10回	10回	論文3件(紀要2件・研究雑誌1件)、発表3件、講演4件
【特記事項】	<p>那須野が原博物館紀要第14号を発行した。紀要の掲載内容は自然分野が1件(鳥類目録)、人文分野が3件(民俗2件、歴史1件)である。論文については、紀要で2件(民俗・歴史)、研究雑誌で1件執筆した。発表については、地域研究発表会で2件(民俗・歴史)、地方史研究協議会で1回行った。講演会については、公民館にて2回、市民大学にて1回、大田原市民大学にて1回行った。「CiNii」や「J-STAGE」といった学術情報検索サイトで、論文を公開できるように準備を進める。</p>						
【課題・改善点等】	<p>紀要は調査研究成果の公表のために、今後も毎年1回継続して発行する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と協働・連携を図り、地域の解明に努めていきたい。</p>						
【外部評価委員 所見】	<p>那須野が原博物館が毎年発行している紀要は、那須地域で行われている調査・研究を発表する場として重要なもので、今後も継続・発行を期待したい。また、平成29年3月に発行された『那須塩原市レッドデータブック』は、市の動植物調査研究会や地域研究者等と博物館との連携・協働の成果であると評価する。</p>						
3. 展示							
3-1 常設展示の充実	常設展示の内容や展示資料の見直しを図ります。						劣化が懸念される資料の複製を作成し、入れ替えを行った。
3-2 企画展示の開催	地域または各テーマに対する市民の理解を深める目的で開催し、資料を有効に活用します。	企画展示の開催回数	20回	4回	4回	4回	
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	90,000人	39,616人	30,000人	39,616人	H29 30,000人/年 H30~ 15,000人/年

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考
		観覧者の満足度(平均)	90%	94%	90%	94%	5段階評価のうち、上位2位の合計 近美97%、恐竜92%、地図90%、鉱物96%
3-3 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会や展示解説、ワークショップなどの関連事業を開催し、展示趣旨を分かりやすく伝えます。	図録の発行件数	5件	0件	1件	0件	
		関連事業の参加率	70%	86%	70%	86%	近美展53%、恐竜展106%、鉱物展100%
		参加者の満足度(平均)	90%	99%	90%	99%	近美展100%、恐竜展98%、鉱物展100%
3-4 トピックス展の開催	資料を積極的に活用するほか、調査研究によって得られた情報を公開します。	トピックス展の開催回数	66回	7回	11回	7回	特別展期間中は開催なし
3-5 意向調査	市民の意見を積極的に収集し、ニーズの把握に努めます。	意向調査(アンケート)の実施回数	20回	1回	4回	1回	3/18実施
3-6 附属施設の展示	附属施設の常設展示の見直しを図ります。企画展を開催し資料を有効に活用します。	黒磯郷土館・関谷郷土資料館常設展示の見直し					黒磯郷土館展示資料キャプションの見直し・差し替え
		日新の館企画展の開催回数	25回	5回	5回	5回	
【特記事項】	4回の企画展示(特別展:「東京国立近代美術館工芸館名品展Ⅴ」・「大恐竜展Ⅱ」、企画展:「あなたの知らない古地図の世界」、移動展「みんなの鉱物大百科」)を開催。H29年度観覧者総数:43,466人(うち学校見学3,850人)・利用者数54,551人。学校を除いた企画展示観覧者数は39,616人で目標値を32%上回った。特別展「近美展Ⅴ」は、現代工芸作品を中心に様々な作品鑑賞法を交えて紹介した。観覧者数1,911人(目標値2,500人)。特別展「大恐竜展Ⅱ」は、系統をテーマに主要5グループの全身骨格・実物化石等を展示した。関連事業の講演会・ワークショップともに好評であった。観覧者数は30,512人(目標値23,000人)。企画展「古地図」は、館蔵資料83点をもとに地域別・目的別に紹介し、幅広い年齢層に来館いただいた。観覧者数は3,096人(目標値2,000人)。移動展「鉱物」は、鉱物の定義・特徴・分類・利用、そして地域の鉱物の5つのコーナーで展示した。特に県内産の鉱物やハンズオンが好評であった。観覧者数は3,200人(目標値2,300人)。						
【課題・改善点等】	特別展「近美名品展Ⅴ」は、楽しみながら鑑賞する方法をいくつか試みたが、観覧者増に結びつかなかった。特別展「大恐竜展Ⅱ」は、来館者をスムーズに誘導するために展示動線を明確にする必要があった。企画展「地図」は、キャラクターの有効活用が課題となった。また図録や展示リストを求める声が複数あった。鉱物展は小さな標本を見るための展示手法に課題が見られた。 今後の企画展示全般の課題としては、展示内容や表現方法の十分な検討、正確かつ訴求力のある広報デザイン、効果的な広報手段の確立などが挙げられる。また、今年度不徹底であった意向調査を計画的に実施し、市民ニーズの把握に努める。						
【外部評価委員 所見】	特別展・企画展・移動展ともに見学者に対し、新鮮な感動と関心を与える構成で、充実した展示であった。現在、博物館に収集・保存している資料は7万点を超え、収蔵できる限界を超えていることから、収蔵庫からの搬出入時に資料が棄損することが危惧される。						
4. 教室講座							
4-1 講座の実施	研究成果を市民に還元するとともに、入門的なものから専門性の高いものまで多様な講座を開催します。	参加率	70%	112%	70%	64%	セミナー67%、自然講座60%
		参加者の満足度(平均)	90%	98%	90%	98%	セミナー100%、自然講座96%
4-2 教室の実施	博物館ならではの体験を重視し、子どもの興味関心を高める教室を開催します。	参加率	90%	70%	90%	70%	化石53%、土器73%、はたおり83%
		参加者の満足度(平均)	90%	96%	90%	96%	化石88%、土器100%、はたおり100%
4-3 親子体験チャレンジの実施	親子のコミュニケーションを深めるとともに、それぞれが楽しく学ぶことができる事業を開催します。	参加率	90%	74%	90%	74%	
		参加者の満足度(平均)	90%	87%	90%	87%	
4-4 博物館フェスタの実施	市民と協働して、博物館の魅力を広く周知する事業を開催します。	来館者数(延べ)	6,000人	1,200人	1,200人	1,200人	
		参加者の満足度(平均)	90%	75%	90%	75%	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考
4-5 各種普及事業の実施	ワークショップや研究発表会などの普及事業を開催します。	参加率	70%	44%	70%	44%	なはくAP50%、発表会37%
		参加者の満足度(平均)	90%	100%	90%	100%	
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に応えるレファレンス業務を積極的に実施し、市民の学習を支援します。	レファレンス件数	500件	49件	100件	49件	
【特記事項】	<p>講座は一般を対象に下野・那須文化セミナー(5回)・那須塩原自然講座(3回)を開催。子ども・親子対象に子ども土器づくり教室(4回)・化石発掘隊(1回)・子どもはたおり教室(2回)の3コースを実施。その他に親子体験チャレンジ(20回)・博物館フェスタ・なはくアートプロジェクト(2回)・地域研究発表会等を開催した。なお、大恐竜展Ⅱ開催中は混雑を避けるため教室講座事業の実施を控えた。</p> <p>セミナーは前年度と比較して参加者数(延べ人数)が23%増加した。自然講座も前年比32%増であったが、目標値に達しなかった。子ども体験教室は、天候悪化や体調不良による当日のキャンセルが多かった。親子体験チャレンジは、市外へのチラシ配布を自粛したことで参加率は減少した。博物館フェスタは、敷地内道路の一部閉鎖などで安全確保を行い、スタッフの負担軽減にも努めた。なはくアートプロジェクト・研究発表会ともに参加率が目標値に大幅に届かなかった。</p>						
【課題・改善点等】	<p>セミナーの見学会は好評で一定の成果が得られた。自然講座は的確な広報手段を検討するとともに、今後はモニタリングなど参加型の活動を取り入れることを検討する。子ども体験教室は参加者の安全確保やキャンセル対応などを改善していきたい。親子体験チャレンジは、参加者は減少したものの制作環境は適正化されて満足度は向上した。今後は定員の設定や指導者の人材確保が課題となる。</p> <p>博物館フェスタはよくばり親子チャレンジの実施方法の再検討と魅力向上を図る必要がある。なはくアートプロジェクトおよび地域研究発表会は事業の魅力伝える広報の充実が求められる。</p>						
【外部評価委員 所見】	<p>数多くの多彩な教室講座を企画・実施している職員の熱意と努力に敬意を表する。現代の多様化した市民ニーズ、各地で開催されている様々な催しやイベントと競合する中、博物館の教室講座の参加率を高めることは容易ではない。新しい試みは重要であるが、テーマによって参加率は異なること等から、参加率にあまりこだわることにはないように感じられる。</p> <p>材料費については、必要であれば徴収すべきであり、参加人数の調整にもつながるものと思う。博物館フェスタについては、博物館を市民に開放しPRするよう機会であることから、充実を図るとともに継続して実施していただきたい。</p>						
5. 地域との連携及び市民との協働							
5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果の場を提供します。					エントランス利用7回(個人3回・自然調査会・黒磯フォト・田空・図書館)
5-2 地域との連携及び学術的な支援	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	25件	5件	5件	5件	ビジター出張展、リンツ展、コンサート、フェスタ(フリーマーケット、福祉団体)、広報
	博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数	25件	8件	5件	8件	県文化財審議会1件、文化功労者選考1件、県RDB2件、市動植物調査2件、市文化財審議会1件、鹿沼市修復委1件
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	600校	95校	120校	95校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	75校	11校	15校	11校	
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用します。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数	150件	12件	30件	12件	ビデオ4件、民具2件、開拓4件、昆虫1件、その他1
		出張授業件数	50件	8件	10件	8件	開こん記念祭6件 大田原高校2件
5-3 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	—	13人	—	13人	博物館実習1人、マイチャレンジ11人、教員研修1人
【特記事項】	<p>《市民、自主団体による教育普及活動への支援内容》</p> <p>石ぐら会「那須野が原入門講座」、いろりの会「昔のおもちゃづくり」、那須文化研究会「講演会」、那須野が原の自然調査会「一般向け観察会」・「ギャラリー展」、西那須野土器づくりの会「一般向け土器づくり教室」、語り部炉ばた「民話語り」、ミュージアムフレンズなすの「学習会」、ジュニア生き物クラブの活動等</p>						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考
【課題・改善点等】	学校見学については、昨年と比べ学校数及び人数ともに減少した。今後の学校の動向を注視していく。また、出張授業は、ホームページに支援内容を紹介するなど広報を充実させ、利用促進に努める。						
【外部評価委員 所見】	学校教育との連携が密に行われていることを評価するが、資料貸出件数の伸び悩みがみられる。博物館で資料の貸出を行っていることを学校に周知されていない可能性があるため、会議等の場で周知を図ることが必要である。学校との連携については、学校現場における学習ニーズの多様化に伴い博物館への期待が大きい反面、指導内容の増加で時間的余裕がないといった現状があるが、情報提供を継続的に行う等、関わりを深めていっていただきたい。 エントランスの活用については、自主団体との協働ということ以上に、市民に博物館活動を広く知ってもらうという点で効果が大きいため、活用を進めていただきたい。						
6. 施設の管理運営							
6-1 施設の維持管理	快適な環境の保全に努めます。	保安、清掃及び維持管理業務の実施、計画的な機器の修繕・更新					
6-2 危機管理体制の強化	防災訓練や救急救命講習等を実施し、危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	10回	1回	2回	2回	1回は未届けで実施。
		救急救命講習の実施回数	5回	0回	1回	0回	
6-3 施設の整備	高齢者、障害者及び外国人等へ配慮した施設の整備に努めます。						トイレの表示及びミュージアムショップの英語表記
6-4 収蔵施設の増設	収蔵庫の拡充を図り、収蔵資料の適切な保存に努めます。	収蔵庫の増設					実施なし。
6-5 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	7,500人	1,359人	2,500人	1,359人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	%	90%	— %	回収なし
		日新の館来館者数	8,000人	996人	1,600人	996人	
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	%	90%	87%	
		関谷郷土資料館来館者数	65,000人	12,061人	13,000人	12,061人	
		関谷郷土資料館来館者の満足度(平均)	90%	%	90%	— %	回収なし
6-6 組織運営	組織の適正な人員配置を行い、効率的な運営に努めます。						
6-7 意識改革と資質の向上	研修会等に積極的に参加し、職員の能力開発、資質向上に努めます。						
6-8 広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	200回	39回	40回	39回	
		ホームページの閲覧回数	550,000回	188,019回	110,000回	188,019回	
6-9 博物館評価	使命、方針及び中期目標に基づいて評価を行い、博物館活動の改善に努めます。						
【特記事項】	施設の維持管理として、博物館の空調設備や監視カメラ等の交換・修繕、黒磯郷土館の屋根修繕、電源改修、関谷郷土資料館の非常警報機バッテリー交換などを実施した。 専門研修として、文書保存講習会1名、埋文保存処理研修会2名、文化財セミナー2名、専門職員研修(歴史・民俗)1名を受講した。 日新の館は、平成25年度のピーク時と比較すると4年間で来館者が約半数に減っている。関谷郷土資料館は市観光局がオープンしたためか平成27年度以降から回復傾向が続いているが、前年度と比較すると1,000人近く減少した。収蔵施設の増設については、早期着工の要望を行っているが、実現にはいたっていない。						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	33年度目標値(5か年)	期間実績合計	29年度目標値	29年度実績	備考
【課題・改善点等】	防災訓練の実施方法などを検討し、危機管理体制の強化および救命講習の実施による職員育成を図る必要がある。日新の館の来館者が減少している要因の一つに自然展示室の閉鎖が挙げられる。新収蔵庫建設までの一時的な資料の保管場所としているが、館の運営に支障をきたしている。長期的な保管環境としても相応しくないため、早急な対応が必要である。						
【外部評価委員 所見】	専門研修の受講や施設及び設備等の修繕などに改善された点は多く見られた。附属施設の活動状況は、年々マイナス傾向にあり、来館者数及び来館者の満足度をあげるために、各附属施設の運営体制を見直さなければならない状況にある。特に、黒磯郷土館の旧津久井家住宅については、地域文化の継承や児童の学習の場として活用するために、建物の保全管理が望まれる。 収蔵庫の増設については、収蔵資料の適切な保存を図る上で必須であることから、最優先課題として取り組む必要がある。また、附属施設については、施設としての役割や特性を考慮して、方向性を継続して検討していく必要がある。						

【外部評価委員 総合所見・指摘事項】

自然環境及び生活が変化していく中において、那須野が原の自然や文化を記録・保存する当博物館の使命は、今後ますます重要となる。そのような地域の変容をとらえて、計画的な収集・保存及び調査・研究を行っていることは評価に値する。しかしながら、那須野が原の貴重な地域文化遺産の収集・保存・活用を保证する収蔵庫が、現状のままでは機能しなくなるので、計画されている収蔵庫増設は、早急に行っていたきたい。

特別展や企画展などの展示事業は、博物館の運営・活動の根幹に関わる事業である。各分野とも那須野が原の特色を生かした展示内容で評価に値する。特に、「大恐竜展Ⅱ」は、当博物館の認知度向上に寄与した。今後来館者の反応や意見、感想を集約・分析することにより、展示の目的や構成の明確化を図っていく必要がある。さらに、各分野の連携や特性を踏まえた展示事業を計画的に進めていただきたい。平成30年度は「明治150年」という節目の年にあたり、近代の那須野が原開拓にも関心が集まるので、近代に焦点をあてた事業の開催を期待する。

毎年発行している研究紀要や自主団体との連携による教室講座・セミナー活動は、地域連携を特色としている当博物館の主要活動である。研究紀要の発行継続や教室講座の実施継続は、地域の知的財産の蓄積・継承に大いに役立っているとともに、学芸員の研鑽及び地域研究者の発掘や連携に大きく寄与しているところである。しかしながら、他施設での類似講座の増加や生涯学習環境の多様化の中、教室講座の参加者が減少傾向にある現状は、地域に根ざした活動をしている当博物館としては、大きな課題である。参加者の動向や地域ニーズの情報を収集し、調査・分析を徹底し、企画・展示・教室講座・広報などの活動に反映させ、改善や工夫をするとともに、教室講座の内容の明確化と充実化を図られたい。

附属施設については、利用度の低迷が続いているので、抜本的な見直しや改善を図る必要に迫られている。

【博物館の対応】

現在、収蔵庫が飽和状態となっており、什器等の保管も含めて、スペースが足りず、博物館活動全体において支障が出はじめている。新収蔵庫の設計は完了しており、早急なる収蔵庫の建設を要望していきたい。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくことが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているが、自然・人文共に地域の総合調査の必要性は認識しているものの職員体制の面で組織化を図ることができないのが現状である。

市民に直接的に関わる教育普及事業においては、事業ごとにアンケートを取り、その事業の評価と問題点を抽出し、「事業別自己評価票」を作成し、さらに、この評価シートに反映させている。展示事業においては、企画展の観覧者数は、「大恐竜展Ⅱ」で多くの来館者があったことで目標値を超えているが、今後もテーマの設定や展示内容の精査・市民ニーズを捉えながら開催して行きたい。教室・講座等の事業においては、子ども向けの教室は、体験・実験・観察を取り入れた事業展開であり、多くの申し込みがあり評価されているが、一般向けの講座等では受講生が少ない。他の施設での開催も含め多様化していることも確かであるが、座学だけでなく事業の工夫や広報にも心掛けて行きたい。博物館は市民との協働を推進しているが、行政の補完であってはならないと考える。博物館関連団体の中には活動が困難となっている団体が出はじめており、業務の改善・工夫で乗り切っていくほかに、今後の対応等が急務となってきている。また、附属施設の在り方については、立地している環境や設置目的等を考慮し、関係機関と調整を図りながら、方向を見出していきたい。

博物館は、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及活動と幅広い活動領域で、市民の皆様目に触れない部分も多く存在する。そのためにも、この博物館評価を実施することで、少しでも理解が図れるようにするとともに、市民との協働を標榜する博物館として、情報の共有を図る目的もある。今年度から博物館評価の第二期目に入るわけだが、第一期で解決しきれなかった課題にも継続して取り組み解決を図っていく必要がある。

外部評価委員	
平成30年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員	
福崎 政弘	大塚 好一
高根沢広之	笹沼 恭欣
木村 康夫	川島 勝子
若月 延雄	松村 雄
千葉 昭彦	君島 章男